

.....
紹 介

土木 構造力學 上卷
 建築

工學士 藤田 信達 共著
 工學士 野坂 相如

昨年末に多數發刊せられた工學書の中で本書は形式に於て膨大なるものの一である。四六倍判の 490 頁、本文丈けに 314 箇の圖表があり練習問題集に 80 題を解説して 28 箇のカットがある、内容は靜力學に屬する諸種の構造物の強度に就ての基礎理論を述べたものである。第一編に於ては力の問題を講述し、第二編に於ては各種材料の強さを論じ、第三編に於ては此等材料に依り組立てられたる諸構造物の設計方法を述べてある。一般工事施工にも此種の一通りの構造上の知識を有して、之を基礎として現場に適應する案を立てねばならぬ、地震の影響及び解説もしてある、例題も加へてあるから理解には容易な事と思はれる、好參考書の一である。定價金 5 圓 80 錢 (東京京橋區南鍋町工業雜誌社發行)

發電水力 第一編總論

工學博士 山田陽清著

山田博士は北海道帝大で河川と水力の講座を擔當し、特に水力の研究に没頭してをる人である。水力發電に關する設計は地の利と施工の難易とを研究して餘程の經驗ある人が立案計畫に當らねばならぬものであるが、本書は水力の一般に及ぶ理論的解説をしたもので第一編總論としての發刊であるから、本書に次で第二編、第三編が出版される事と思ふ、從來から水力發電に關する斷片的な論文は相當に發表されてをるが、纏つたものは少いのであるから本書の如きで大成を希望するものである。内容は先づ水力利用の發達史から、水力測量、落差、靜水學、動水學、孔口、Belanger 氏の定理、筒或は嘴子、堰管、溝渠及河川、降水量、流量及水位、荷重、貯水池及調整池等で殆んど水力に關する在ゆる方面の理論を統合したもので、圖表 145 箇は印刷と俱に鮮明なもので菊版 434 頁クロス綴定價金五圓である。(東京日本橋丸善書店發行)

.....
編 輯 便 り

○東天に輝く日を迎へて今年の國運を祈る時、國に榮光あり、人に歡喜あり、まことに一新の氣力に満

つるを感じます。

○本誌正月號の工事美談は各大家の與へられた金玉の工事訓言であります、各方面の讀者から感激に満ちた書面を寄せられましたのを見ると、如何に先輩の一言が後進者に對して好箇の刺戟たるかを知りませぬ。

○一月號に載せ切れなかつた原稿は何れ適當の時期に掲載致し度いと思ひます。

○本誌二月からは又工事畫報本來の編輯に戻ります意見よりも實際、議論よりも實行、其所に確實なる工事進行の狀況を報道します。

○例に依り昭和二年工事畫報合本の下巻も出来ました、此の合本により日本の工事の過程が圖書館學校其他に永く殘されるのであります。

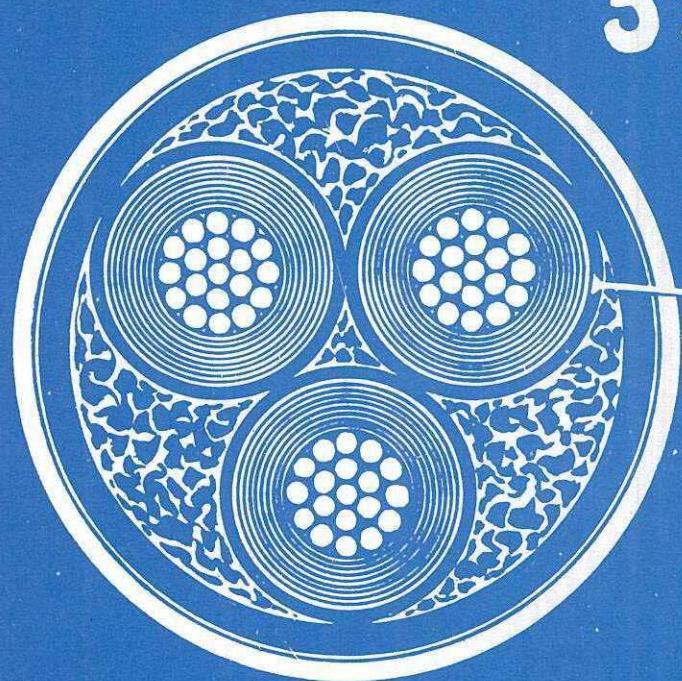
○綠色クロスの春トチで堅牢一點張りに製本したものです、書留送料ともて一部 4 圓 30 錢の破格値段です、少部数の賞費頒布ですから至急申込を要す。

土木 建築		工事畫報 第四卷 第二號	
		定價七十錢(稅二錢)	
		毎月一回一日發行 一ヶ年十二冊發行	
		購 讀 料	
		壹 部	七十錢 稅二錢
		參ヶ月	貳圓 稅共
		六ヶ月	四圓 同
		一 年	八圓 同
		(外國ハ一部稅共七十八錢)	
注 文	注文は總て前金、送金は必ず振替貯金にて振替東京七〇貳六五番宛拂込の事、但し六ヶ月以上の申込は御希望により集金郵便による但集金拂込料とも御負擔の事		
		昭和三年 一 月廿六日印刷納本 昭和三年 二 月 一 日發 行	
		編輯兼 岡 崎 保 吉 發行人 東京府北豐島郡西巢鴨町池袋九七三	
		印刷人 鷺 見 知 枝 磨 東京市京橋區木挽町一ノ一四	
		印刷所 鷺 見 文 友 堂 東京市京橋區木挽町一ノ一四	
		發行所 工 事 畫 報 社 東京市麴町區有樂町一丁目一番地 (丸ノ内仲通り四號館七號) 電話九ノ内二六三三番 振替東京七〇貳六五番	
		大賣捌所 東京堂・東海堂・大東館・北隆館	

H型超特高壓電纜

66 000 v.

33,000 v.



???

古河電氣工業株式會社

